

平成 元年 4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

小曾木の東京炭礦

青梅～飯能間（西武バス）・青梅～成木間（都営バス）を運行しているバスの停留所に『東京炭礦前』というのがあるのを御存じでしょうか。場所は小曾木4丁目地内です。

青梅（小曾木）にあって、“東京炭礦”というのは、ちょっと奇異な感じがしますが青梅市内にはもちろん、東京都内で唯一の炭礦なのかと自問自答すると納得できます。

昭和49年11月3日発行の“小曾木近代誌”（青梅市立第7小学校創立百周年記念誌）によると、この炭礦では亜炭・泥炭を昭和35年まで採掘していました。Sさんは炭礦の近くに住み、以前はこの炭礦に勤務していました。このSさん所有の資料と話しをもとに採炭当時の状況を再現すると次のようです。

1 礦 区

- ア 礦区所在地 東京都青梅市小曾木及び青梅市谷野区
- イ 礦区登録番号 東京都試掘権登録第462号
- ウ 礦区面積 28322 アール
- エ 礦 種 亜 炭
- オ 礦区の位置 青梅線青梅駅より東北4キロ、西武線飯能駅より西5キロ

2 地質・鉱床

地質は秩父古生層の低部に沈積した新第4紀層であり、基盤は古生層である。この上に堆積した砂礫層、砂岩及び頁岩の地層間に木質亜炭及び泥炭層が介在している。炭質は平均炭素分25%、揮発分10%、灰分65%、熱量500カロリー程度

3 礦 量

掘削中の炭層の状態、地表調査により炭層の厚さ平均1m、推定24万トン

この炭礦の創業は昭和10年ころからで、昭和35年の閉山までの間、経営者は6回代わっています。昭和33年が最盛期で、月産500トンを採炭、暖房燃料や固形肥料の増量材として使用されてきました。従業員は、当時40人程度、内15～20人の坑内夫は福岡県、山口県、福島県の出身者でした。現在、小曾木地内に居を構えている人も数名います。戦前、落盤事故は1度あり、死者が1名出ています。

この東京炭礦も、現在は、当時を物語る堅坑跡2つと地下に総延長500メートルの坑道跡、それにバス停留所に名前が残るのみです。

（文責 川鍋幸三郎）